

リハビリテーション技術研修等 国別研修(本邦研修)(2012年9月～実施中)

リビアでは、大規模な民主化運動、武力闘争を経て、2011年に新政権が樹立しました。それから約3年が経ち、国の復興が進められる中、内戦で負傷した多くのリビア人に対し治療やリハビリを行い、彼らが早期に社会復帰できるよう後押しすることが差し迫った課題となっています。しかしながら、理学療法や義肢装具製作に携わる人材が少なく、その知識や技術レベルも数十年前に国外で研修を受けただけ、というように医療・社会保障分野の人材が「量」と「質」の両面で不足しています。まず、この状況を改善する必要があります。

日本は、2012年からリビアの医療・社会保障分野の人材育成を支援するため、リビア社会省、保健省やリハビリテーションセンターの職員たちを招聘し、日本のリハビリテーション分野での取組や義肢製作技術を学ぶ研修を実施しています。義肢とは、外傷や疾病等で、手や足を失った人が装着する人工の手足(義手・義足)のことです。採寸・採型から利用者一人ひとりに合った義肢を製作、調整するには専門的な知識・技能が求められます。

2012年9月には、義肢リハビリテーション・マネジメント研修が行われ、社会大臣を含む13名の参加者は義肢に関する法律・政策、構造、人材育成システム、サービス提供などに対する理解を深めました。また、2013年10月および2014年1月に、計12名の医療従事者を招聘し、リハビリテーション技術(医師・理学療法士)研修を実施しました。2013年11月には、リビア人義肢装具士4名に対し、義肢や装具の製作技術の研修を実施するとともに、義肢装具の技術をリビア国内で普及させるために必要な研修機材を供与しました。(2014年8月時点)



義肢装具の製作技術を学ぶ研修生(写真: JICA)